（9）天頂（てんちょう）鉱山跡ー追記

自前のこの鉱山探査記を読み返していると、ＧＰＳであるガーミンの入手前の紹介文には多くの不案内があることに気がついていた。この鉱山跡はそのうちの１つである。梅雨のこの時期、現地を訪問した。報告書に追記する。なを、この鉱山は「日光鉱山」に近接している。時間配分を考慮すれば、１日で両鉱山を訪問することは容易であろう。帰りには、尚仁沢の名水を組むことも予定に入れれば結構な一日になろう。

２０２０年　７月

図１　赤輪が天頂鉱山後である。４６１号線を玉生の方から西行して来たら、Ａ点「天頂交差点」で右折する。が、右折して直ぐに道は左右に分岐している。右側に進むこと。赤丸が日光鉱山跡。日光鉱山については本探査記の（１０）を参照のこと。

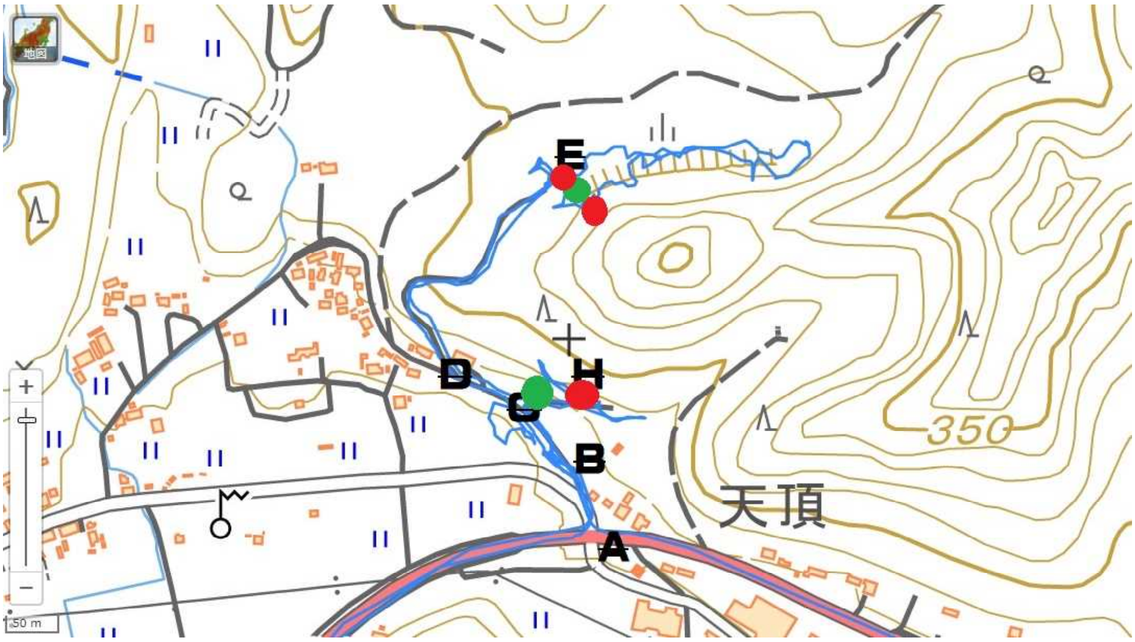

図２　図１の部分拡大図。Ｂ点には幅広い側地があるので、ここに駐車できる。現地の入口付近は民家が隣接している。現地の方に出会ったら確りと訪問の挨拶をすること。Ｃ点の所には道脇直ぐに「通洞坑」がある。綺麗に閉塞されている。Ｄ点から山側の林道に入っていく。Ｅ点付近が鉱山施設跡。地形図でわかるように、この付近の北側は灌木、林の生い茂った広大な平地となっている。黄緑丸が坑口跡、赤丸が鉱山施設跡。ただしＨ点の赤丸は、多分鉱山の安全･繁盛を祈願したものであろう社である。本当に朽ちかかっている。が、参道の草刈りは小まめに行われている。

鉱山跡写真

写真１　Ｂ点からＣ点方向を見ている。赤輪の所に右に林道入口がある。

写真２　Ｃ点から「通洞坑」を正面に見ている。暗くてよく見えていない。中央の赤輪の所である。ゴミ集積箱の様子は１０年前と変わっていない。

写真３　「通洞坑」に近づいての一様。入口は確りと閉塞されている。既報の写真と対照すると良い。

写真４　Ｄ点。右側の登り道に入っていく。この付近には民家が点在しているので、住民の方と出会ったら確りと挨拶をしよう。

写真５　林道途中の様相

写真６　林道の終端。Ｅ点付近である。１０年前には開けた原っぱであったが、現在では一帯に木々、灌木が生い茂って、低地は湿地化しているようである。

写真７　Ｅ点である。斜面に沿ってホッパーらしいコンクリート基礎跡。既報のコンクリート施設跡を下から見上げている。

写真８　写真７の施設の下方にあったコンクリート施設跡。前方の突き当たりとなる赤輪の所にブロックで綺麗に閉塞された所があった。閉塞された坑口跡かも。写真９参照。

写真９　赤輪が閉塞した坑口と思われる。

写真１０　コンクリート施設跡の東側に広がっていた広いズリ跡。現在の地形図を見ると、この当たりは東西にガレ場記号が描かれている。このズリ場のことなのかも知れない。

写真１１　Ｃ点から矢印のように登って来た。Ｈ点である。停車中の車の奥に社。

写真１２　社の様子。社は腐りかけ、倒壊しそうである。が、参道の草刈りは継続されている。

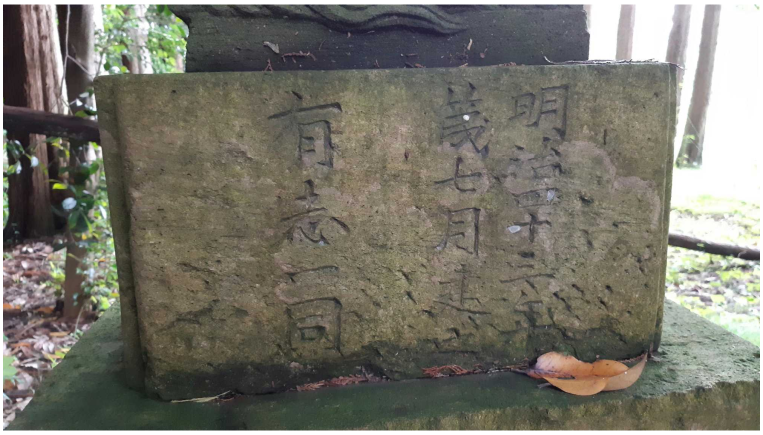

写真１３　狛犬の台座に「明治４３年」が刻印されていた。

付記

（１）社への林道の先で、現在砂防工事が行われていた。そのため、少し先で林道は通行止めとなっていた。工事の様子は前方によく見えていた。図２の地形図をよく見ると非常になだらかで広い「沢」である。沢とも言えないかも知れない。何故現在「砂防工事」が必要となったのか？　もしや、通洞坑から出されたズリの堆積場であったのかも知れない。工事が終了したら、是非とも確認したいものである。

(9) 天頂（てんちょう）鉱山跡

鉱山の所有者は良く変る。その度に、同じ鉱山なのに呼称も変ることがある。この鉱山は、「栃木鉱業所栃木坑」、又は「天頂鉱山」、又は「栃木鉱山」と呼ばれていたらしい。主要鉱物は黄銅鉱、黄鉄鉱、希に方鉛鉱、閃亜鉛鉱。位置は東経１３９．８１４１°＝１３９°４８′５１″、北緯　３６．７７９３°＝　３６°４６′４５″、高度＝２９８m。地形図中の上の十字である。広い原っぱである。現場は広い原っぱ状態である。原っぱの南側に幅の広いズリ面がある。鉱物ズリは少ない。その中央付近には鉱石排出用のコンクリート施設が未だに残っている（写真）。多分このコンクリートの内部に坑口があるのであろう。確かめてはいない。山を挟んだ南側の舗装された道路脇に「通洞坑」がしっかりと残っている（写真）。この通洞坑から鉱石を排出し、その前に広がる平らな土地で選鉱していたらしい。

(10) 日光（にっこう）鉱山跡

地形図中の下の２箇所の十字である。この鉱山も他名称がある。「栃木鉱業所日光坑」である。主要鉱物は天頂鉱山と同じで、黄銅鉱、黄鉄鉱、希に方鉛鉱、閃亜鉛鉱である。多分鉱脈は同じなのであろう。日光鉱山は山の南北に廃坑口がある。北側のズリはあまり大きくなく、木々の下になっている。が、南側のズリは広大であり、下草も生えていないので開放状態である。のんびりとズリ探しが行える。北の十字位置は東経１３９．８２２３°＝１３９°４９′２０″、北緯　３６．７６５６°＝　３６°４５′５６″、高度＝３１８m。何カ所かに坑口跡があり、小さな鉱物ズリもある。南の十字位置は東経１３９．８２２６°＝１３９°４９′２１″、北緯　３６．７５９９°＝　３６°４５′３６″、高度＝２５４m。広大なズリの真ん中である。殆どは捨てズリであり、好物ズリは少ない。が、探し回れば、鉱物ズリは拾えよう。坑口跡は、十字の辺りから北北西方向の沢を登り詰めたところにある。進入禁止の柵で囲まれている。大規模な坑口であったようである。一体はズリのようであるが、めぼしいズリは少ない。

日光鉱山には山の北と南の２箇所に坑口跡有り

地図　　　国土地理院２万５千分の１地形図「玉生」
探査日　　２００９年３月、その他の日
参考文献

（1）「日本地方鉱床誌　関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、昭和４８年。

鉱山跡写真

広い範囲に捨てズリがある。が、めぼしい鉱物ズリは少ない。

天頂鉱山の採鉱所跡のコンクリート施設。

舗装道路脇にある通洞坑

日光鉱山の北側にある坑口跡の一つ

日光鉱山の南側にある広大なズリ。が、めぼしい鉱物ズリは少ない。

日光鉱山の南側の坑口跡。金網柵で、立ち入り禁止。この柵内に坑口跡がたくさんありそう。

採集鉱物写真

品名　　　南側で黄銅鉱か黄鉄鉱、北側で銅の２次鉱物（黄緑＝クジャク石、空色＝？）
　　　　　大した採集品ではないので当分、未掲載